

シティプロモーション及びブランド戦略の現状について

「いたばしNo.1 実現プラン 2025」の重点戦略の一つである「ブランド戦略」を踏まえたシティプロモーション及び地域資源ブランドに関する現状について、下記のとおり報告する。

1 はじめに

区のブランド戦略は、「いたばし No.1 実現プラン 2025」において、経営資源を重点的に投入する重点戦略の柱のひとつとして位置づけられており、平成27年3月に策定した「板橋区シティプロモーション戦略」及び令和2年12月に策定した同「追録版（板橋ブランド戦略）」、「令和5年度版 板橋区シティプロモーション計画」等に基づき、様々な取組を行っている。

また、令和4年5月にSDGs未来都市に選定されたことを契機に、今後はさらにSDGs及び「絵本のまち」をより戦略的に企画し、実行に移すとともに、発信をしていく必要がある。

このほか、SNSや動画配信の世界的な利用拡大により、企業、団体から個人に至るまで、様々な主体による膨大な情報発信が行われ、その中でより「伝わる」広報や魅力発信の手法及び仕組みを絶えず検討、更新していく必要がある。

これまでの取組を踏まえ、絶えず変化する状況の変化に柔軟かつ迅速に対応しながら、ブランドの確立・維持・向上をめざし、今後も新たな事業展開の可能性を模索していく。

2 シティプロモーションについて

主な事業名	概要	R4実績
プロモーションスペースの活用	板橋区の情報発信の場、交流の場として、魅力発信に寄与する展示等を行っている。	【利用回数】 延べ73回
各種広報ツールの活用 板橋区公式ホームページ	区の事業・施設案内など、区のあらゆる最新情報を区民等に向けて提供している。	【アクセス数】 8,527,532人
広報いたばし	区の施策・事業、区民への啓発など区政に関する総合情報や、区の多様な魅力を伝える広報媒体として発行している。	【発行回数】 46回 【発行部数】 150,000部

主な事業名	概要	R4実績
いたばしくらしガイド	区の施設・サービス・窓口や医療機関等の最新情報を掲載した「いたばしくらしガイド」と、災害への備えや、防災マップ等を掲載した「防災ガイド・ハザードマップ」を一冊にまとめた総合情報誌として発行している。	※前回配付はR3年度に全戸配布。
各種SNS Twitter	区からの情報や板橋の魅力を発信していくため、区公式Twitter、Facebook、Instagram、YouTubeを運用している。SNSにおいては、イベント情報等のリアルタイム発信や、区の魅力発信により、区への愛着の醸成やイベントの集客等を図るほか、災害等から区民の安全を守るための情報等を発信している。	R4.4月現在 【フォロワー数】 20,133人
Facebook		【フォロワー数】 3,041人
Instagram		【フォロワー数】 2,133人
YouTube		【チャンネル登録者数】 3,652人
区広報番組 「魅力発信！いたばしナビ」	区の施策、景観、文化など区の魅力を紹介する番組。本庁舎の各フロア及び児童館に設置されたデジタルサイネージ、YouTubeの区公式チャンネルのほか、ジェイコム東京板橋・北局を通じて毎日2回CATVにて放送している。	【作成回数】 年12回 (1回15分程度)
パブリシティ	日刊紙6紙をはじめとした新聞各社及びテレビなどの報道機関に対して、日々の区政情報などを提供している。	【プレスリリース】 123件 【新聞掲載実績】 (区より) 77件 (新聞社より) 240件

3 地域資源ブランドについて

(1) 「絵本のまち板橋」

主な事業名	概要	R4実績
イタリア・ポローニャ 国際絵本原画展	イタリアのポローニャで毎年行われている児童書専門のブックフェア事務局が主催する児童書のイラストのコンクールの入選作品を紹介しており、R5年で43回目となる。 出版・未出版を問わず応募できるため新人作家の登竜門としても知られ、多くの絵本作家を輩出している。	(関連事業) 【講演会】 2回 77人 【対談】 3回 103人 【講座】 4回 48人 【夏のアトリエ】 1回 20人
こどもアトリエ	3歳から小学生の子どもとその保護者を対象とした実技講習会 (参加費 1組1,000円)	【実施回数等】 年6回 318人

主な事業名	概要	R4実績
いたばし国際絵本翻訳大賞	海外の文化に触れ、国際理解を育むことを目的に、英語とイタリア語の海外絵本の翻訳コンテストを開催。 また、国際理解を深め、表現力や英語力を高めることを目的に、中学生部門（英語のみ）も実施している。 14回目以降の最優秀翻訳大賞作品は出版している。	【応募数】 ・英語 776件 ・イタリア語 266件 ・中学生部門 333件
ポローニャ・ブックフェア inいたばし	ポローニャ児童図書展事務局からの新着寄贈絵本を中心に、世界各国の絵本を展示・紹介するイベントを開催している。 R5年度は31回目の開催となる。	【来館者】 4,022人 【講演会】 1回 39人 【外国語おはなし会】 16回 308人
世界の書棚から	各国大使館職員や翻訳家を迎え、その国の新しい児童書や出版事情を紹介する講演会、関連イベントを実施している。	【講演会】 12回 延べ306人 【関連イベント】 12回 延べ123人
On the table	絵本の編集者を迎え、完成までの過程などの制作秘話を紹介する講演会と関連イベントの実施。	【講演会】 12回 延べ307人 【関連イベント】 12回 延べ192人
英語絵本活用イベント	英語教育に関心のある保護者等に向け、絵本の活用方法や選書について、講師からレクチャーを受ける。 ※R4年度新規事業	【参加者数】 2回 43人
私のイチオシ絵本リレー	週替わりで参加者に好きな絵本やおすすめの絵本を1冊紹介してもらい、SNSで発信する。また紹介された絵本と紹介文を館内に展示する。	【紹介者数】 50名 【紹介した絵本】 51冊
サラボルサ児童図書館との連携 オンラインミーティング ぬいぐるみおとまり会 わらべ歌収集ワークショップ 姉妹図書館提携締結1周年記念 展示の実施	姉妹図書館提携締結している「サラボルサ児童図書館」と定期的にオンラインミーティングを行い、実務者同士で積極的に意見交換・情報共有を行う。企画展示の同時開催、SNSでの相互発信、共同プロジェクトの企画等を行う。	【実施回数】 4回 【参加者数】 7組 【参加者数】 11人
小さな絵本館	「絵本のまち板橋」として、誰もがいつでも絵本を身近に感じ手にとることが出来る環境を提供するため、区立施設に加え、民間施設にも設置している。	【設置数】 39か所 (R5年3月現在)

主な事業名	概要	R4実績
おはなし会	日本語だけでなく、英語などの多言語のおはなし会を定期的を開催する。	【実施回数】 99回 【参加者数】 延べ2,303人
絵本づくりワークショップ	小中学生を対象に、絵とストーリーを自分で考え、オリジナル絵本を作成するワークショップを開催する。なお、中学生は区内印刷・製本会社と協力し、より本格的な絵本を作成する。	【小学生向け】 101人 【中学生向け】 10人
いたばし子ども絵本展	絵本づくりワークショップでの完成作品展示を中心に、区内小中学生の活動成果を紹介する展示イベントを開催する。	【展示期間】 R5年3月1日～9日

(2) 板橋4大イベント

主な事業名	概要	R4実績
いたばし花火大会	主催：板橋区・板橋区観光協会 場所：板橋区荒川河川敷 ※戸田橋花火大会（戸田市）と同時開催 内容：打ち上げ合計 戸田市と合わせて約13,000発（R5）、尺五寸玉打ち上げ、大ナイアガラの滝700m、芸術玉打ち上げ ほか	コロナ禍において、R4年度まで、3年間中止を余儀なくされた。
板橋区民まつり	主催：板橋区・板橋区観光協会 場所：グリーンホール前道路及び周辺 内容：おまつりひろば、楽市楽座ひろば、SDGsひろば ほか	【来場者】 2日間で 延べ41万人
板橋農業まつり	区民と農業者との交流の場を設け、都市農業に対する区民の理解を一層深めるとともに、農業者の生産意欲の高揚を図ることを目的して、各種パレード、野菜宝船の展示・お宝分け、区内産農産物の販売、区民農園収穫祭等の催しを2日間実施している。	【来場者】 2日間で 延べ8万4千人 農業の担い手を育成する「農業スキル育成講習（R4年度新規事業）」で栽培している農作物を会場内で紹介する等、農業の魅力向上に向けた取り組みを新たに行った。
板橋Cityマラソン	板橋区の荒川河川敷内特設会場前をスタートし、江戸川区の「荒川大橋」で折り返す世界陸連認証及び（公財）日本陸上競技連盟公認コースのマラソン大会。制限時間が7時間と長い上に高低差が少ないコースで全国でもトップクラスの完走率（96%）を誇っている。定員1万人（フルマラソン）	【参加者】 8,926人 【完走者数】 8,602人 【完走率】 96.4%

(3) 企業や関係団体との連携

主な事業名	概要	R4実績
区内6大学連携事業	区内6大学と包括的な基本協定を締結している。教育・学術研究の発展及び活力ある地域社会の形成に寄与することを目的として、相互に連携協力するネットワーク（連絡会・分科会）を構築し、事業実施につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所1階ギャラリーモールにおける6大学PRの催事 ・箱根駅伝企画（区公式Instagramで箱根駅伝出場校の紹介） ・「絵本のまち板橋」ワークショップ及び有識者懇談会の協力（東京家政大学連携）
良品計画との包括連携協定ほか企業連携	地域社会の発展という共通テーマのもと、社会、経済、環境等、様々な分野で、区が有する資源と、株式会社良品計画が有するノウハウや他自治体での実績が相乗効果生むとの判断で包括連携協定をR4年度に締結した。	包括連携協定締結式：R4年9月15日
板橋オプトフォーラム（IOF）	板橋区が中核的機能を果たし、光学と精密機器分野における研究者・技術者の団体が一堂に会し、組織を超えた連携の強化・拡大と区内産業の活性化を図ることを目的としている。板橋区主催の基調講演及び区内光学関連企業等の展示会並びに各団体主催の研究会（日本光学会光設計研究グループ・理化学研究所大森素形材工学研究室・宇都宮大学オプティクス教育研究センター）を開催している。	<p>【来場者】</p> <p style="text-align: right;">560人</p> <p>R4年度は区制90周年記念事業として、埼玉県・栃木県の光学企業と連携した「第2回東日本光学産業サミット」の実施や、オンラインイベントの開催、記念冊子の制作、大学研究室によるポスター発表を行うなど新たな取組を実施、参加者の増加につながった。</p> <p>※R3来場者数：212人</p>
板橋産業ブランド戦略会議（ブランド・コア）	H26年度に実施したODF（光学設計・製造に関わる国際会議）の開催に向けた検討を機に、区内産業の活性化を図るため、産業都市としてのブランドを確立する手法についての検討を区内企業と区が行っている。 H25年4月に発足し、(株)トプコン、(株)タニタをはじめとした光学・精密機械企業を中心に、区内企業14社が参加。	R4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から3年振りの開催。 本会議から発足した印刷分科会においては、R4年度、絵本のまち事業を実施。
いたばし産業見本市	区と(公財)板橋区産業振興公社、いたばし産業見本市実行委員会が主催で開催。印刷・光学・精密機器等の地場産業や、医療・健康・福祉関連、環境関連、IT・情報関連の成長産業を主な出展対象とした、区内産業分野最大級のビジネス展示会。区内外の中小企業や大学・研究機関及び中小企業支援機関等の出展、セミナー等のプログラムを通して、出展者の販路拡大・連携促進、新製品開発・競争力強化等の支援を行い、区産業のブランド力向上を図る。	R4年度は会場出展70社、オンライン出展のみ27社。来場者は2日間延べ1,548名。オンライン開催は39,458PV。コロナ禍では、出展者数をやや抑えつつ、オンラインとのハイブリットで実施してきた。

主な事業名	概要	R4実績
板橋製品技術大賞	区内の中小企業による優れた新製品・新技術を表彰する場を創設することにより、区内企業の開発力、技術力を広く内外にアピール、板橋区産業の振興を図ることを目的とする。また、区内事業者が新製品・新技術の開発に取り組むことで、産業を取り巻く環境の変化に対応し、独自の製品・技術を持つ力強い企業として確立することへの支援を行う。	R4年度は21件応募があり、14件が受賞した。受賞製品については、PR動画、パンフレット制作によるPR活動の実施、いたばし産業見本市等への展示（希望者のみ）を行った。
宇都宮大学 光学サポートオフィス	H25年に連携協定を締結している宇都宮大学による、企業からの光学に関する技術的な課題の解決や、高度化を目的とした事業。 H29年12月5日に相談窓口を開設。 毎月第1・3火曜日を実施し、宇都宮大学の黒田和男氏、武田 光夫氏、小野 明氏が相談員を務める。相談費用は無料。	相談件数はR2年度11件、R3年度15件、R4年度12件。 光学専門誌によるメールマガジンやリスティング広告によって周知。相談員が研究実績があり、著名な先生であることから、リピーターも多く、区内外の光学関連企業の研究者から専門性の高い相談を受けている。
友好交流都市事業	友好交流協定を締結している下記三都市と互いの魅力を発信し、相互交流を促進する。 ・栃木県日光市 ・石川県金沢市 ・岩手県大船渡市	大船渡市協定締結10周年記念イベント開催

(4) 地域特性を生かした取組

主な事業名	概要	R4実績
板橋のいっぴん	H15年度に区内商業の活性化を目的に、板橋区を代表する食のブランド品として初回認定、R4年度に時代やニーズに合わせるためのリニューアル、64品を新たに認定した。	「あつまれ板橋のいっぴん」と題した即売会に参加した新旧認定商品店舗が互いに協力し、多くの方が買い求めることができる機会を設けた。また、「無印良品 板橋南町22」において、「板橋のいっぴんコーナー」を常設し、区内外へのプロモーションを実施した。